

第13回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成29年8月18日（金）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 19名
事務局 6名

1 会長あいさつ

暑い日が続いているが、委員の皆様は元気にお過ごしのことと思う。先日は、台風が接近したが大きな被害もなく安堵しているところである。

このまちづくり市民協議会も13回目を迎えたが、本日は事務局から光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明を受け、委員の皆さんから意見等をいただくこととしている。本日もよろしくお願ひ申し上げる。

2 事務連絡

- ・第2次光市総合計画の周知・啓発について
 - ・議事の進め方について
- 事務局から説明

4 議題

(1) 光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

地域の夢プランを作るなど、地域でできることは地域でやろうという機運が高まってきているが、総合計画の概要版は「市の夢プラン」と思っただけか。

●事務局

総合計画に記載しているものはこれから5年間で市が取り組むものである。夢プランについては、「夢」の部分もあるかもしれないが、総合計画については実効性を重視するものである。

●委員

我々のように高齢になってくると5年後に活動できるかどうか分からないので、出来れば5年後に地域を引っ張るリーダーとなるような若者を育成してほしい。

●事務局

昨年度、計画策定時に開催した市民対話集会で中学生に発表していただいたが、今年度は各中学校に出向いて市長が総合計画で目指すまちづくりについて語る特別授業の開催を予定している。こうしたことを通じて子供たちが地域の担い手となるような意識づけのきっかけとしたい。

●委員

政策目標 1、基本戦略①の三番目の「市制度活用による創業事業者数」について、目標は 10 件で基準値、実績値は 0 件となっている。また、基本戦略②の一番目、「鳥獣による農林業被害額」は目標値よりも実績値が少ない、つまり予定よりもいい状態となっているが、目標値はどのような根拠で設定したのかお聞きしたい。

また、「地元の食材を購入している人の割合」は 95%が目標となっており、かなり高い数字だと思っているが、具体的にどのような施策をするのか。「学校給食における光市産品の使用率」については、目標が 30%であるが、他市と比較するとどのような水準にあるのか。

●事務局

目標値については、希望的な部分も当然入っているが、基本的には他の計画との整合性や、施策の推進により達成する見込みということで設定しているところ。

「市制度活用による創業事業者数」についてであるが、市で中小企業に対する援助をする新たな施策の実施により達成できる見込みの件数ということで設定したところ。以前はそのような制度がなかったため、基準値は 0 になる。

「地元の食材を購入している人の割合」について、市ではこれまで里の厨を中心に地産地消の推進を図ってきており、まだ目標値には至っていないが、今年度新たに計画を策定することとしており、そのような中で今後目標達成に向けた取組みが進んでいくものと認識している。

●事務局

目標値については、平成 27 年策定時に設定したものである。「鳥獣による農林業被害額」については、確かに今年度すでに目標を達成しているが、あくまで策定時の見込みであるということをご理解いただきたい。必要に応じて目標を再設定することも検討したい。

それぞれの数値目標を設定した背景には、具体的な施策があるので、今一度、計画書本冊の方もあわせてご確認いただきたい。

●事務局

「学校給食における光市産品の使用率」における他市との比較についてはデータを持ち合わせていないためお答えすることはできない。

●委員

よくできている項目と、達成状況がよくない項目はどの部分であると考えているのか示してほしい。

●事務局

非常に多くの項目があることから個別の項目を取り上げることは難しい。各項目について

て矢印で動向を示しており、これは初めて取り入れたものであるが、この部分において下向きの矢印がある項目についてはまさに危機感を持っているところである。最終年度に目標達成すれば良いが、基準値よりも実績値が下がっている項目については、このまま行けば目標を達成できないという危機感はある。

良い項目について、例えば先ほど話の中でも出た「農林漁業新規就業者数」では、目標値 24 人に対して、実績値は 18 人であり、基準値の 14 人から着実に増加していることから、順調に推移していると認識している。

●委員

「地元の食材を購入している人の割合」の実績値は、どのような根拠で算出したものなのか。

●事務局

毎年実施しているまちづくり市民アンケートの結果による。

●委員

アンケート結果を数値として使うのであれば、回収率は重要であるが、回収率を上げる取り組みはあるのか。

●事務局

今年度から、アンケートを送付した方に、お知らせはがきを送付しようと考えている。以前やっていたが、近年はやっていなかった。このような形で催告を促そうと思う。このような取り組みにより回収率が上がるという調査結果もある。

●委員

例えば、回収した人の中から何名かにクオカードが当たるというような取り組みはできないか。

●事務局

当然そのようなアイデアはこちらも持っているところであるが、回答は無記名であり、誰から回答があったかは分からないため、難しい。他に何か良いアイデアがあれば是非いただきたい。

●委員

自治会を通じて事前に対象者へお知らせをしてはどうか。光市を良くするためのアンケートであるから、地元も協力してくれるのではないか。

●事務局

参考にさせていただきたい。

●委員

転入転出について県外との比較ではマイナスだが、県内ではプラスとのことであるが、あまり喜んでいないのか。

●事務局

県外との比較で言えば、大きな傾向としては変わっていないと考えている。ただし、人口ビジョン策定時には年平均 110 人転出していたところが、70 人程度となり、若干少なく

なっている。県内との比較で言えば、潮目が変わった可能性はあると認識している。また、下松市と比較すると、これまでは30人の転出超過であったところが、去年は逆に29人転入しているように、本市の住みやすさが伝わったのではないかと考えている。具体的にどの施策によるものかはわからないが、一定の効果はあったものと考えている。

●委員

学校教育はあまり数値がよろしくないと感じているが、今後どのように取り組んでいくのか。

●事務局

「将来の夢や目標を持っている子どもの割合」や「学校に行くのは楽しいと思う子供の割合」といった部分のことが念頭にあるのだと思うが、これらの項目の数値が悪化していることへの対処については、この結果を基に各所管がその理由と施策を考えていくことになる。

●委員

教育関連で5ページの最後に「認知されたいじめの年度内解決率」という項目がある。広島県の事例であるが、親が学校へいじめに関する相談を行ったが、学校はいじめとは認めなく、最終的に子どもが自殺してしまった。やはり、いじめに至る前の段階でいかに食い止めるのかということが大事であるので、この部分に重点を置いてほしい。学校と教育委員会が十分な連携を図ることが大切である。

●事務局

おっしゃる通りであるし、教育委員会にも伝えたい。これについては、学校現場でも様々な努力はしていると思うので今後も見守っていただきたい。

4 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・次回会議は3月中下旬頃を予定している（最終回）